

第3号

令和3年12月1日発行

自主学習通信



～引き出せ！子どもの力！！～

《目次》

P1 実践校紹介②「自主学習習慣の育成につながる指導のあり方について」

～大阪市立横堤中学校～

P3 実践校紹介③「自尊感情を高める自主学習習慣の取組について」

～大阪市立関目小学校～

大阪市教育委員会事務局
第2教育ブロックグループ

実践校紹介②

自主学習習慣の育成につながる指導のあり方について

～大阪市立横堤中学校～

事務局 : 「自主学習通信第2号」では、「主体的に学び続ける力を育む自主学習習慣のあり方」と題したご提案をいただきありがとうございました。現在、横堤中ではどのように取組を進めていらっしゃるのでしょうか。

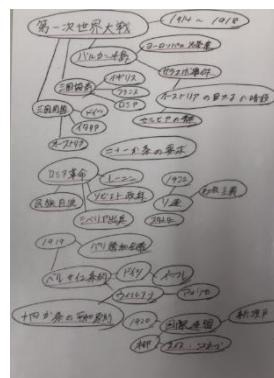


井寄 芳春 校長

井寄校長 : 本校では、学級主体ではなく、主に社会科を中心に教科主体で自主学習を進めている状況です。社会科では、宿題として出された課題とともに、さらにその課題を深め（探究し）たり、間違えた問題に改めて取り組むなどの、自主的に行われる「+α」の学習を評価し、生徒のやる気を促しています。

事務局 : 中学校では自主学習を進めにくいといったご意見もよく聞こえてきます。

井寄校長 : 自主学習は、いわば部活動の練習に近いものがあるかと思います。例えば、サッカー部の生徒は、ボールをコントロールする技術の習得のため家でリフティングの練習をしたり、野球部の生徒は、バッティング技術の習得のため、素振りの回数を増やすなど、自分に必要な技術を身につけるために自主的に練習に励みます。学習でも同じように、自分の苦手な部分を克服するために、例えば、授業中に解けなかった数学の問題に家でもう一度取り組むなど、自分で内容、方法、時間を決めて学習に取り組むことができるかと思います。



ウェビングを用いて授業の内容をまとめています。

事務局 : そのためには、先生側ではどのような工夫が必要でしょうか。

井寄校長 : 例えば、授業中の配付プリントを多めに印刷しておき、生徒に呼びかけるのもいいかと思います。試験前に試験範囲を復習するために授業中に配付したプリントをもらいに来る生徒がいるかと思います。それも自主学習になりますよね。

事務局 : 自主的な学習の一つと言えますね。しかし、プリント等を用意しても、中学校では、ほとんどの生徒が学習塾に通うなど、時間確保が難しいといった声も聞こえてきますが、この点についてはいかがですか。

井寄校長 : まずは、机の前に10分座ることから始めてみるのはいかがでしょうか。ただし、座っている間は、必ず何か学習をすることを条件とします。例えば、漢字の書き取り練習をしていると、10分経つとかなり波に乗ってきて、最初に決めた10分で学習を終えるのが難しくなります。「このページが終わるまで頑張ろう。」などと学習を続ける。このような体験・経験を通して、自宅でわずかな時間であっても机に向かう習慣が身につくのではないかと考えます。

事務局 : 習慣づけというのは、とても大切ですね。

井寄校長 : この習慣づけは、小学校のときから続けることが大事だと思います。

事務局 : ところで、全国学力・学習状況調査の結果を見ていると、特に国語の「記述式」の正答率がかなり上昇していますが、何か取組をされているのですか。

井寄校長： 毎週行われる全校集会での校長講話をその日の国語の授業でまとめさせるなど日々の教育活動を活用しながら書く力を養えるように、担当教諭が工夫してくれています。この活動が読解力の向上にも寄与していると思います。

事務局： これは、自主学習としても取り組みますね。

井寄校長： 「自主学習習慣の育成につながる指導のあり方」について、8つのポイントがあると考えています。(下表参照)この中でも、特に「5 自主学習で学びの共働化を支え、促す」というのが大切であると考えています。安心して学べる、学び合いができる雰囲気作りがとても大切です。また、教員も児童生徒が好奇心や探究心が高まるような授業づくりや、家庭学習のモチベーションアップに繋がるような授業づくりも大切です。



自主学習習慣の育成につながる指導のあり方

- 1 ガイダンスで自主学習の意義と方法を伝える
- 2 多様な評価を生かして自主学習の力と習慣を育む
- 3 授業規律・学習ルールを教員間で共有する
- 4 授業と宿題の関連を図り、両者の相乗効果を高める
- 5 自主学習で学びの協働化を支え、促す
- 6 積み上げ型と探究型の自主学習をデザインする
- 7 ICTを有効に活用した自主学習へ
- 8 自主学習をキャリア教育と関連づける

事務局： 今年度は、各校に1人1台端末(PC)が整備され、navima（デジタルドリル教材）も導入されましたが、自主学習のツールとしてICTはどのような役割を果たすと思われますか。

井寄校長： navimaの活用もさることながら、探究的な学習に結び付けられると考えます。また、プレゼン用の資料を作成するなど、PCがまるで文房具のような身近なツールとなり、活用できたらと考えています。支援学級在籍生徒でnavimaを自主学習につなげている生徒もいます。今後もこのような展開を広められればと考えています。

事務局： PCを活用することにより、自主学習も幅が広がりますね。

井寄校長： そうですね。PCを用いた自主学習(探究的な学習)の発表の場、評価の場として、校内もさることながら、コンクールやコンテスト等、校外の発表の場へも繋がれたら生徒のモチベーションアップにつながります。また、学習の成果として、記録を残すことも大切だと考えます。しかし、PCを用いての学習に際しては、情報モラルを生徒一人ひとりにしっかり身につけさせることが肝要です。



事務局： なるほど。

社会科自主学習ノート

井寄校長： 自主学習をキャリア教育と関連づけていきたいです。「自主学習習慣の育成につながる指導のあり方」にもありますが、生徒自身に長期的視野に立った「なりたい自分」のイメージから「つけたい力」を考えさせ、学ぶ意義を感じられるようになることが目標です。

実践校紹介③

子どもたちの自尊感情を高める自主学習習慣の確立について ～大阪市立関目小学校～

事務局：自主学習の取組を導入された経緯についてお聞かせください。

石井校長：昨年度、第2教育ブロック全体で、自主学習習慣の確立に向けた取組を進めることになったことがきっかけで、本校でも取組を始めることになりました。現在は、3年生以上の各学級で、自主学習に取り組んでいます。

事務局：新しい取組の導入ということで、教員の中から戸惑いなどの意見はありませんでしたか。

石井校長：特にありません。これまでから実践してきた先生がいたり、昨年度、事務局から発行された「自主学習達人への道」や「自主学習通信第1号」を参考にしたりして、校内で情報共有したりして、それぞれ学年単位や学級単位で工夫を凝らして、取組を進めてくれています。

事務局：自主学習習慣確立の推進にあたって、大切にされていることはありますか。

石井校長：先生方には、「自主学習の取組を、子どもたちを褒めるためのきっかけにしよう。」と伝えています。というのも、各種アンケート結果等から、本校の子どもたちの自尊感情の低さに課題があることが分かりました。そこで、自尊感情を高めるための手段の一つとして「自主学習」に取り組み、先生方が子どもたちの学びをしっかりと褒めることや、子どもたち同士がお互いの取組を認め合うことで一人ひとりの自尊感情を高めることができないかと考えました。

事務局：自主学習の取組を盛り上げていくために、工夫されていることはありますか。

石井校長：学期に一度、児童の自主学習の取組を、校長が表彰（通称「自主ピカ賞」）する機会を作っています。先生方には、表彰する児童の選出とその理由を教えてもらうようお願いしています。また、自主学習の推進に向けた先生方の意識が高まるように、今年度は「運営に関する計画」に、自主学習に関する項目を入れました。年度末評価の際に、先生方の取組を共有する機会を作る等して、自主学習に関する先生方の「引き出し」を増やしたいと考えています。取組の内容や進め方については、基本的に先生方の自主性や創意工夫にお任せしています。先生方にとっても、自主学習の取組を無理なく続けていけることが大切と考えます。

事務局：先生方の創意工夫には具体的にどういったものがありますか。

石井校長：声かけやコメントで児童を励ましたり、教室背面の黒板に児童の取組を紹介したりしています。

また、一週間に一度、児童がお互いのノートを見て、付箋に肯定的なコメントを書き合う時間を設けている学級もあります。やはり、児童同士が互いの表現や感性に触れることは意欲につながっているようです。

他には、授業と自主学習をつなげている例として、社会科で地域の祭りについて学んだ児童が、他の地域の祭りについて調べるなど、授業での学びを自主学習につなげようと、担任も意識的に児童に働きかけています。



石井 力 校長



学級での表彰例

事務局： 一人一台端末等の活用については、いかがですか。

石井校長： 各学年での活用が進んでいます。特に、デジタルドリルnavimaについては、保護者の関心も高いと感じています。各学級では、朝学やすきま時間を利用してnavimaに取り組むなど、積極的な活用を進めているところです。

事務局： navima以外の活用方法についてはいかがですか。

石井校長： 本校では、週に1回の児童朝会で、感染症対策等、私が作成したパワーポイントのスライドを各教室に配信し、児童にはそのスライドを見ながら講話を聴いてもらっています。休み時間に「今日の朝会でのお話のスライドは、どうやって作るんですか。」「スライドの絵をアニメーションにする方法を教えてほしい。」と端末を持って校長室に質問にくる児童もいます。

事務局： 校長先生の講話を聴いて、内容に関心を持ってくださっているんですね。

石井校長： そうですね。講話を通して、児童が一人一台端末に対しても興味を持ち、一人一台端末を表現のツールとして活用できるのではと期待しています。

事務局： 今後に向けた課題はありますか。

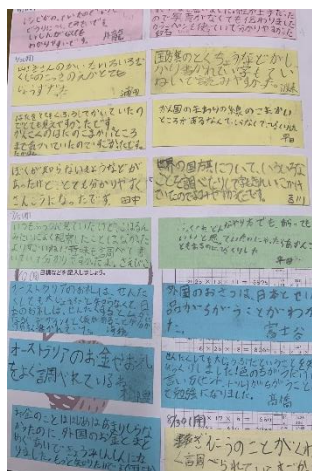
石井校長： 本格的に自主学習の取組を始めてまだ1年半です。まずは、先生方と「自主学習の良さ」を共通認識しながら、今の方法で継続して取り組んでいきたいと思っています。自主学習の取組は、子どもたちにとっては、自己表現の機会であるとともに、友だちとつながり、自身の学びや自尊感情を高められる機会でもあります。先生方にとっても、子どもたちを褒める一つの機会になります。また、授業と家庭での学びのつながりを意識して指導することは、授業力を高める機会にもなると考えています。まずは、管理職がしっかりとその良さを理解し、先生方と共有していくことが大切だと思っています。



4年生のノート「他の地域の祭りについて」



廊下に掲示されている校長講話のスライド



ノートのコメント例

【コメント抜粋】（原文のまま引用）

- 「ぼくが知らないもようなどがあったけど、とても分かりやすくさんこうになったです。」
- 「世界の国旗について、いろいろなことを調べたりして字もきれいにかけていたので、よみやすかったです。」
- 「いつもふつうにみていたけど、〇〇さんみたいによく観察したことはなかったよ！すごいね！意味も調べて書いていて分かりやすかったよ。」
- 「せんたくしても大じょうぶだということを知ってびっくりしました！色のちがうだけで言い方(セント、ドル)がちがうことも知って勉強になりました。」

編集後記

- 今回、自主学習推進チーム会議にもご参加いただいている2校を訪問し、それぞれの学校で工夫を凝らした自主学習習慣の確立に向けた取組を進めてくださっていることがわかりました。
- 横堤中学校では、自宅での自由時間の確保が難しい中学生であっても、日常の授業で工夫をすることによって、自主学習の機運を高めることができる、さまざまな視点をご紹介いただきました。
- 関目小学校では、昨年度からの取組とのことでしたが、学級によってはかなり充実した取組となっており、自主学習ノートを通して児童が自主的に学習している様子や、新しい発見に目を輝かせている様子などが感じられる、そんな取組でした。
- 校長先生がともに「児童生徒のみならず、教員の取組の進め方についてもあくまで『自主的な』ものになるよう、声掛け等工夫している。」と言われたことが印象に残りました。また、自主学習は「学習すること」がもちろん大切ですが、将来の自分を知る手掛かりになるという視点も教えていただきました。
- お忙しい中、時間を取っていただき、ありがとうございました。また、資料のご準備等ご協力いただいた先生方にも感謝申し上げます。

自主学習習慣の確立の
さらなる取組の充実に向けてダッシュ！

